

令和七年度 自己評価 勇志国際高等学校 千葉学習センター

評価基準	A・・・ほぼ達成	B・・・概ね達成	C・・・やや不十分	D・・・不十分
------	----------	----------	-----------	---------

評価項目	達成状況	評価	改善点
道徳教育の確立	スクーリングにて道徳の教科書を用い、授業を行っている。HRや日常生活の中でも道徳心を養う話題を随時提供している。	A	利他心を教え続けていく。
スクーリングの充実	スクーリングは通学生3回、ネット生5回、少人数1回、社会人4回実施。起立性の生徒のために午後から組むこともできるように時間割を工夫している。	A	問題なく運営ができた。 家からなかなか出られない生徒もいるので、工夫を凝らす。
レポート提出率	レポート提出率 通学生98% ネット生94%	A	次年度も95%以上を目指す。
ネット活用の充実	Growth Programは、通学生にも朝のHRで声をかけ、個別学習の時間に参加させている。 生徒・保護者面談、ガイダンス、ホームルームを実施した。	A	より多くの生徒に受講を勧める。
各種検定受験指導	令和七年度の各種検定は受験者207名、合格者113名である。 2級以上の上位級の合格：英語検定3名、漢字検定5名	A	昨年より検定の受験者・合格者ともに増えた。
進路指導の充実	進路決定率83% キャリア教育プログラムの実施。	B	100%を目指す。
いじめ防止	心のアンケートを実施し、いじめの早期発見に努めている。	A	いじめを許さない学び舎を構築する。
SNS指導	リテラシー講座を実施。	A	保護者にも協力してもらおう。
生徒支援	特別な支援を要する生徒は33名。個別支援計画を作成している。 問題行動への指導1名。	A	適切な指導ができた。
親孝行の奨励	親孝行・絆作文コンクール 573件応募	A	親孝行する生徒を育成する。
安全管理	避難訓練の実施。警察による不審者対策訓練の実施。	A	事故・災害・不審者等に対し、平常時よりリスク管理を徹底する。
情報提供	学習センターの行事や特別活動等をHPで紹介。	A	ニーズに合わせた情報提供を行う。

地域との連携	勇志祭で地域協賛企業は9社	A	地域の皆様に対する感謝を忘れない。
ボランティア活動	「絆の日」として近隣の清掃活動は、令和7年は12回実施。 申し込みによる参加数245名。	A	ボランティア活動の意義を理解させる。 登校日以外の通学生、ネット生の参加者数を増やす。
学習センター独自の行事	新松戸まつり 参加生徒数実行委員25名、当日お手伝い25名。 中井亜美さんオリンピック壮行会 生徒110名、保護者・関係者29名、卒業生4名、一般33名参加。	A	協力することを学ぶと同時に、地域貢献の意識も持たせる。 さまざまなことに関心を持たせる。

令和七年度 自己評価 勇志国際高等学校 福岡学習センター

評価基準	A・・・ほぼ達成	B・・・概ね達成	C・・・やや不十分	D・・・不十分
------	----------	----------	-----------	---------

評価項目	達成状況	評価	改善点
道徳教育の確立	道徳の授業を行っている。HRでも担任から道徳心を養う話題を随時提供している。	A	利他心を教え続けていく。
スクーリングの充実	スクーリングは通学生3回、ネット生6回、社会人2回実施。 満足度に関し今後アンケートで数値化する	A	問題なく運営ができた。 満足度80%以上を目指す。
レポート提出率	期日までのレポート提出率 全体 94.3%	A	次年度も90%以上を目指す。
ネット活用の充実	ネットライブ授業「Growth Program」を実施、全校のべ受講者2,843名。 webで生徒・保護者面談、ガイダンス、ホームルームも実施した。	A	機会を作り、より多くの生徒に受講を勧める。
各種検定受験指導	令和七年度の各種検定は合格者55名である。 2級以上の上位級の合格者： 英検2級 1名 漢検2級 4名 情報系2級以上 8名	B	検定の受験者数・合格率のアップに向け生徒のサポートを続ける。
進路指導の充実	進路決定率90% キャリア教育プログラムの実施。	B	可能な限り100%に近づける。
いじめ防止	心のアンケートを実施し、いじめの早期発見に努めている。	A	いじめを許さない学び舎を構築する。
SNS指導	当校において設定している「ソーシャルメディアガイドライン」に基づき、必要に応じ適宜指導している。生徒指導に関する案件はなし。	A	保護者にも協力してもらう。
生徒支援	特別な支援を要する生徒は14名。個別支援計画を作成している。 問題行動への指導対象者はなし。	A	適切な指導ができた。
親孝行の奨励	親孝行・絆作文コンクール 210名応募	A	親孝行する生徒を育成する。
安全管理	避難訓練の実施。 緊急地震速報シェイクアウト訓練の実施。	B	事故・災害・不審者等に対し、平常時よりリスク管理を徹底する。
情報提供	学習センターの行事や特別活動、説明会の案内等をHP・SNSで紹介。	A	ニーズに合わせた情報提供を行う。

地域との連携	勇志祭で地域協賛企業を依頼している（昨年度は協賛なし） 特別活動「博多めぐり」で地元のガイドの方に参加いただいている。	B	地域の皆様に対する感謝を忘れない。 交流できる機会を増やしていく。
ボランティア活動	「絆の日」として近隣の清掃活動は、令和7年は10回実施。 参加生徒数のべ290名。	A	ボランティア活動の意義を理解させる。
学習センター独自の行事	「大刀洗平和記念館見学」平和学習の一環として開催。北九州や大牟田 など県内各地の施設等も利用している。（のべ参加者 153 名）	A	次年度は各地域にて「出張学習センター」を年13回実施予定。

令和七年度 自己評価 勇志国際高等学校 熊本学習センター

評価基準	A・・・ほぼ達成	B・・・概ね達成	C・・・やや不十分	D・・・不十分
------	----------	----------	-----------	---------

評価項目	達成状況（記載例）	評価	改善点（記載例）
道徳教育の確立	道徳の授業を行っている。毎月【絆の日の活動】という地域清掃ボランティアを行い、利他心の実践を行っている。	A	活動を継続することで、生徒一人一人に新たな気づきを促していく。
スクーリングの充実	スクーリングは、通学生2回、ネット生8回、授業内容は探究型授業、講義型授業とそれぞれの生徒の状況に合わせたスクーリングを実施している。	A	問題なく運営ができた。 今後も生徒の状況に合わせてスクーリングを実施していく。
レポート提出率	レポート提出率 通学生99% ネット生97%	A	次年度も95%以上を目指す。
ネット活用の充実	ネットを活用し生徒・保護者面談、ガイダンス、毎朝のショートホームルーム、毎月のロングホームルームも実施した。	A	より多くの生徒に受講を勧めるとともに、ネットを使った授業の内容を充実させていく。
各種検定受験指導	令和七年度の各種検定は受験者164名、合格者92名である。 2級以上の上位級の合格31名	A	昨年より検定の受験者・合格者ともに増えた。
進路指導の充実	進路決定率85% キャリア教育プログラムの実施。	B	100%を目指す。
いじめ防止	心のアンケートを実施し、いじめの早期発見に努めている。	A	いじめを許さない学び舎を構築する。
SNS指導	リテラシー講座を実施。	A	保護者にも協力してもらう。
生徒支援	特別な支援を要する生徒は102名。個別支援計画を作成している。 問題行動への指導4名。	A	一人一人の生徒の状況に合わせて適切な指導ができた。
親孝行の奨励	親孝行・絆作文コンクール 491名応募	A	親孝行する生徒を育成する。
安全管理	避難訓練の実施。警察による不審者対策訓練の実施。	A	事故・災害・不審者等に対し、平常時よりリスク管理を徹底する。
情報提供	学習センターの行事や特別活動等をHPやSNSで紹介。	A	ニーズに合わせた情報提供を行う。

地域との連携	地域の祭りへの協賛や、祭り会場の清掃などを行う。	A	地域の皆様に対する感謝を持ち続ける。
ボランティア活動	「絆の日」として近隣の清掃活動は、令和7年は12回実施。 参加生徒数 240名。	A	ボランティア活動の意義を理解させる。
学習センター独自の行事	熊本県内における出張学習センター・新入生歓迎会・宿泊研修・研修旅行・各種イベント参加。	A	生徒のニーズに合わせた様々な活動を行い、成長の機会を作る。

令和七年度 自己評価 勇志国際高等学校 宮崎学習センター

評価基準	A・・・ほぼ達成	B・・・概ね達成	C・・・やや不十分	D・・・不十分
------	----------	----------	-----------	---------

評価項目	達成状況（記載例）	評価	改善点（記載例）
道徳教育の確立	道徳の授業を行っている。毎月【絆の日の活動】という地域清掃ボランティアを行い、利他心の実践を行っている。	A	活動を継続することで、生徒一人一人に新たな気づきを促していく。
スクーリングの充実	スクーリングは、通学生3回、ネット生6回、社会人は月1回実施。それぞれの生徒の状況に合わせたスクーリングを実施している。	A	問題なく運営ができた。 今後も生徒の状況に合わせてスクーリングを実施していく。
レポート提出率	レポート提出率 全体 98.3%	A	次年度も 95%以上を目指す。
ネット活用の充実	ネットを活用し生徒・保護者面談、ガイダンス、毎朝のショートホームルーム、毎月のロングホームルームも実施した。	A	より多くの生徒に受講を勧めるとともに、ネットを使った授業の内容を充実させていく。
各種検定受験指導	令和七年度の各種検定は受験者 139 名、合格者 81 名である。 2 級以上の上位級の合格 40 名	A	昨年より検定の受験者・合格者ともに増えた。
進路指導の充実	進路決定率 78% キャリア教育プログラムの実施。	B	100%を目指す。
いじめ防止	心のアンケートを実施し、いじめの早期発見に努めている。	A	いじめを許さない学び舎を構築する。
SNS 指導	リテラシー講座を実施。	A	保護者にも協力してもらう。
生徒支援	特別な支援を要する生徒は 22 名。個別支援計画を作成している。 問題行動への指導 5 名。	A	一人ひとりの生徒の状況に合わせて適切な指導ができた。
親孝行の奨励	親孝行・絆作文コンクール 713 名応募	A	親孝行する生徒を育成する。
安全管理	避難訓練の実施。警察による不審者対策訓練の実施。	A	事故・災害・不審者等に対し、平常時よりリスク管理を徹底する。
情報提供	学習センターの行事や特別活動等を HP や SNS で紹介。	A	ニーズに合わせた情報提供を行う。

地域との連携	地域の祭りへの参加や、祭り会場の清掃などを行う。	A	地域の皆様に対する感謝を持ち続ける。
ボランティア活動	「絆の日」として近隣の清掃活動は、令和7年は11回実施。	A	ボランティア活動の意義を理解させる。
学習センター独自の行事	宮崎県内における出張学習センター・新入生歓迎会・宿泊研修・研修旅行・各種イベント参加。	A	生徒のニーズに合わせた様々な活動を行い、成長の機会を作る。

令和七年度 自己評価 勇志国際高等学校 大分学習センター

評価基準	A・・・ほぼ達成	B・・・概ね達成	C・・・やや不十分	D・・・不十分
------	----------	----------	-----------	---------

評価項目	達成状況（記載例）	評価	改善点（記載例）
道徳教育の確立	道徳の授業を行っている。毎月【絆の日の活動】という地域清掃ボランティアを行い、利他心の実践を行っている。	A	活動を継続することで、生徒一人一人に新たな気づきを促していく。
スクーリングの充実	スクーリングは、通学生3回、ネット生6回、社会人は月1回実施。それぞれの生徒の状況に合わせたスクーリングを実施している。	A	問題なく運営ができた。 今後も生徒の状況に合わせてスクーリングを実施していく。
レポート提出率	レポート提出率 全体 98.8%	A	次年度も 95%以上を目指す。
ネット活用の充実	ネットを活用し生徒・保護者面談、ガイダンス、毎朝のショートホームルーム、毎月のロングホームルームも実施した。	A	より多くの生徒に受講を勧めるとともに、ネットを使った授業の内容を充実させていく。
各種検定受験指導	令和七年度の各種検定は受験者 46 名、合格者 25 名である。 2 級以上の上位級の合格 18 名	A	昨年より検定の受験者・合格者ともに増えた。
進路指導の充実	進路決定率 89% キャリア教育プログラムの実施。	B	100%を目指す。
いじめ防止	心のアンケートを実施し、いじめの早期発見に努めている。	A	いじめを許さない学び舎を構築する。
SNS 指導	リテラシー講座を実施。	A	保護者にも協力してもらう。
生徒支援	特別な支援を要する生徒は 16 名。個別支援計画を作成している。 問題行動への指導 2 名。	A	一人ひとりの生徒の状況に合わせて適切な指導ができた。
親孝行の奨励	親孝行・絆作文コンクール 214 名応募	A	親孝行する生徒を育成する。
安全管理	避難訓練の実施。警察による不審者対策訓練の実施。	A	事故・災害・不審者等に対し、平常時よりリスク管理を徹底する。
情報提供	学習センターの行事や特別活動等を HP や SNS で紹介。	A	ニーズに合わせた情報提供を行う。

地域との連携	地域の祭りへの参加や、祭り会場の清掃などを行う。 商店街と協力して商店街の広報活動を行う。	A	地域の皆様に対する感謝を持ち続ける。
ボランティア活動	「絆の日」として近隣の清掃活動は、令和7年は11回実施。	A	ボランティア活動の意義を理解させる。
学習センター独自の行事	大分県内における出張学習センター・新入生歓迎会・宿泊研修・研修旅行・各種イベント参加。	A	生徒のニーズに合わせた様々な活動を行い、成長の機会を作る。

令和七年度 自己評価 兵庫明石高等学院

評価基準	A・・・ほぼ達成	B・・・概ね達成	C・・・やや不十分	D・・・不十分
評価項目	達成状況		評価	改善点
スクーリングの充実	スクーリング完遂が生徒にとって大きな成功体験となり、自己肯定感の向上に大きく寄与した。		A	環境変化に対する耐性を養い、生徒がより安心してスクーリングに臨める体制を構築。
レポート提出率	レポート提出率 100%		A	令和8年度もレポート提出率 100%を目指す。
進路指導の充実	進路決定率 73%		A	進路決定率 100%を目指す
いじめ防止	いじめの早期発見に努めている。		A	対人スキル向上プログラムを強化し、いじめを未然に防ぐ「心のレジリエンス」を養う。
SNS指導	SSTを通じて非対面コミュニケーションの特性への理解を深める取り組みを実施している。		A	年間を通じた体系的予防教育プログラムの構築。保護者との連携、家庭でのICT利用ルールの定着支援、ネット環境に即したリテラシー指導の強化。
生徒支援	生徒の特性に応じた支援計画作成し効果的に運用している。心理的安全性確保とスモールステップによる指導でレポート完遂や登校安定化を図っている。		A	社会自立に向けたキャリア教育を強化。卒業後を見据えた自己管理能力の育成と体制の整備。
親孝行の奨励	制作活動や行事を通じて、感謝を形にする機会を設け、家族の絆を再認識する場を提供している。		A	生徒と保護者が互いの成長を認め合い、感謝が循環するような双方向の働きかけを充実させる。
安全管理	BCPに基づいた訓練の実施やヒヤリハットの共有により、安全意識が組織内で共有されている。		A	校外活動時や移動中におけるリスクアセスメントの強化と、より具体的なマニュアル整備を図る。
情報提供	ブログ・インスタ・毎月発行の広報誌などにより活動の様子を正確かつ迅速に提供している。		A	ニーズに応じた内容と専門知識に関する情報発信の強化。
地域との連携	文化祭の実施により地域と連携を図っている。		A	地域住民との直接的な交流やボランティア参加の機会を拡充。
兵庫明石高等学院独自の行事	クラス合同行事や宿泊体験を通じて集団生活のルール習得など、社会自立に向けた成果が得られている。		A	行事への不安を抱える生徒への事前ガイダンスを視覚的に強化し、より安心して参加できる準備を整える。

令和七年度 自己評価 ウィルサポ学園

評価基準	A・・・ほぼ達成	B・・・概ね達成	C・・・やや不十分	D・・・不十分
------	----------	----------	-----------	---------

評価項目	達成状況	評価	改善点
スクーリングの充実	事前に情報共有を行い、状況に応じた対応を実施した。個々の状況に配慮しながら、無理のない参加を支援できた。	A	今後も関係機関との連携を継続し、より円滑な情報共有に努める。
学習支援	一人ひとりの進捗状況に応じた声かけや確認を行い、計画的に学習に取り組めるよう支援した。多くの生徒が期限内に課題提出できた。	A	個別の理解度に応じた支援をさらに充実させる。
進路指導の充実	生徒の希望や特性に応じた進路情報の提供を行い、選択の幅を広げる支援を行った。	B	早期からの情報提供と個別相談の機会を増やし、より納得感のある進路選択につなげる。
いじめ防止	定期的な面談や日々の関わりの中で、生徒の様子把握に努めた。小さな変化にも気づけるよう支援体制を整えている。	A	引き続き、安心して相談できる環境づくりを行う。
SNS指導	SNSの使い方やリスクについて、適宜指導や共有を行った。	A	家庭とも連携しながら、継続的な意識づけを行う。
生徒支援	必要に応じて個別支援の視点を持ち、それぞれに合った関わりを実施した。行動面についても落ち着いて対応できた。	A	状況に応じて支援内容を見直し、より適切な支援につなげる。
親孝行の奨励	日々の関わりや活動の中で、家族への感謝や思いやりの気持ちを考える機会を設けた。	A	家庭状況等に配慮しながら、感謝や関わりを考えられる機会を継続していく。
安全管理	避難訓練や安全確認を実施し、安心して利用できる環境整備を行った。	A	日常的なリスク意識を高め、継続して安全管理を徹底する。
情報提供	活動の様子や取り組みを適宜発信し、学園の理解促進に努めた。	A	より分かりやすく、ニーズに合った情報発信を行う。

独自の行事	学園独自の活動を通して、生徒の成長や経験の機会を提供した。参加者からも一定の評価を得ている。	A	内容を見直しながら、継続的に実施していく。
-------	--	---	-----------------------

令和七年度 自己評価 提携校：広島学びのサポートセンター

評価基準	A・・・ほぼ達成	B・・・概ね達成	C・・・やや不十分	D・・・不十分
------	----------	----------	-----------	---------

評価項目	達成状況	評価	改善点
スクーリングの充実	少人数の為、個別の課題に的確に取り組むことができた。実施校(勇志国際高校)と事前の情報共有ができた。	A	今後も情報共有を密にする。
学習支援	個別に学習進捗を確認し、レポートは全員が期限内に提出できた。	A	次年度も個別確認を徹底し、全員提出を継続する。
進路指導の充実	今年度卒業生はいない為、進学者はゼロ。2年生は専門学校見学を課外活動として実施。早期から進路に向けての活動を行っている。	A	次年度も進学へ向けて見学を実施し、進路決定率向上を目指す。
いじめ防止	定期的に個人面談を行い、生徒の様子を把握した。いじめの早期発見に努めている。	A	安心して相談できる環境づくりに努めている。
SNS指導	日常の指導の中で、SNS利用に関する注意点やリスクについて適宜指導を行っている。	A	今後は体系的な指導機会(講座等)の実施についても検討が必要である。
生徒支援	個別の課題に応じた面談を実施するとともに、保護者との情報共有を行い、連携した個別に応じた支援を行っている。	A	今後はより計画的・継続的な支援体制の整備が課題である。
親孝行の奨励	スクーリングの機会を活用し、保護者への手紙を書く活動を通じて、感謝の気持ちを表現する機会を設けた。	B	日常的な意識づけや継続的な取組の充実が課題である。
安全管理	避難訓練を実施し、安全意識を高めた。	A	生徒の安全を第一に、平常時よりリスク管理を徹底する。
情報提供	保護者に対し、課外活動等の様子を写真付きのお便りで報告し、活動内容の周知を図っている。	A	ホームページ等での外部への情報発信は十分ではない為、体制整備を図る。
独自の行事	絵画展見学や体験活動、スポーツ活動等を実施し、楽しさと将来を見据えた学びの機会を提供している。	A	就労を希望する生徒に対する職業体験の機会の確保を図る。

令和七年度 自己評価 なのはなファミリー

評価基準	A・・・ほぼ達成	B・・・概ね達成	C・・・やや不十分	D・・・不十分
------	----------	----------	-----------	---------

評価項目	達成状況	評価	改善点
スクーリングの充実	実施校の先生と連携し、スクーリングまでの準備を、本人たちの自主性を引き出しながら、滞りなく進めることができた。 また、実施校におけるスクーリング期間中に体調不良（インフルエンザ）となり、当該期間内で単位を取得しきることができなかつたため、後日追加のスクーリングに参加した。	B	体調管理について事前の配慮をより徹底し、万全の状態ですクーリングに参加できるように支援していく。また、やむを得ず追加スクーリングが必要となった場合には、本校と早期に連携し、円滑な日程調整を行う。
学習支援	当施設の生活スケジュールの中に学習日および学習時間を設定し、日々の学習進捗の確認とレポート提出を着実に行うことができた。	A	次年度は、生徒の専門学校進学を見据え、基礎学力の定着に加え、受験を意識した学習指導を強化していく。
進路指導の充実	当施設は摂食障害からの回復を支援する施設でありながら、これまでに国立大学医学部への合格者を五名、税理士資格取得者を四名輩出してきた実績がある。昨年度は、社会人入学により近隣の看護専門学校に二名の合格者を出すことができた。 症状からの回復と心身の成長を基盤として、自立に向け、個々の希望に応じた進路選択を支援している。	A	今後も各生徒の進路希望に応じて、入学試験に対応できる学力の養成を意識した指導を行っていく。
いじめ防止	これまで同様、今年度においてもいじめに該当する事案は発生していない。日常的な関わりの中で良好な人間関係が保たれている。	A	引き続き、日記の確認や定期的な面談を通して人間関係の把握に努め、未然防止に取り組む。
SNS指導	インターネット利用に関しては、個人的なSNSの使用を制限し、適切なルールのもとで運用しており、今年度も概ね遵守されていた。	A	引き続き利用ルールを徹底し、安全で適切なインターネット利用の指導を継続する。

生徒支援	夕方および夜の時間帯に個別面談の機会を設け、日常的に相談に応じることで、大きな問題に発展する前に適切な対応を行うことができた。	A	今後も定期的な個別面談を継続し、生徒一人ひとりの意欲や主体性をより高めていく支援を行う。
親孝行の奨励	年長者を敬い、周囲への感謝の気持ちを大切に育てる指導を行っている。その一環として、保護者への感謝の気持ちを持つことも大切にしている。	A	他者を思いやる心や感謝の気持ちを、日常生活の中でより確かなものとして育てていく。
安全管理	農業実習など屋外活動が多いため、大型機械やエンジン機器を使用する際には、安全面に十分配慮し、事故防止に努めた。これまで大きな事故もなく、安全に運営することができている。	A	スポーツ活動を含め、事前にリスクを丁寧に共有し、安全意識のさらなる向上を図る。
情報提供	ホームページを通じて活動の様子や日々の取り組みを発信してきたほか、新たにショート動画や動画コンテンツによる情報発信にも取り組み始めた。また、月報「山小屋便り」についてもホームページ上で閲覧可能としている。	B	今後は、より多様な媒体を活用し、活動内容がより具体的に伝わるよう、継続的かつ丁寧な情報発信を行う。
独自の行事	ウィンターコンサートでは、収容人員660人の勝央文化ホールを借り切って開催する、三時間半を超える音楽劇の中で、各自が重要な役割を担い、行事を通して大きく成長する機会となった。	A	今後もコンサートをはじめとした各種行事を通じて、生徒一人ひとりの成長につながる機会を継続的に創出していく。

令和七年度 自己評価 ソフィア

評価基準	A・・・ほぼ達成	B・・・概ね達成	C・・・やや不十分	D・・・不十分
------	----------	----------	-----------	---------

評価項目	達成状況	評価	改善点
スクーリングの充実	少人数ではあるものの、時間を確保し、実施校と事前事後とも情報共有を図ることができた。	A	今後も情報共有を密にする。
学習支援	個別に学習進捗を確認し、レポートは全員が期限内に提出できた。	A	次年度も個別確認を徹底し、全員提出を継続する。
進路指導の充実	本年度卒業を迎える生徒はいないが、次年度3年生となる生徒に対し、進路決定に向けた支援を行ってきた。	B	進路決定率向上のため、情報を提供しつつ、面談を重ねる。
いじめ防止	いじめに関する直接的な調査は行っていないが、個別面談の中で、対人関係や集団適応に関する困りを訴えやすい関係や環境に努めた。	A	今後も安心して相談できる環境づくりに努める。
SNS指導	特に指導は行っていないが、日常会話の中で SNS やネット、ゲーム等の使用状況を確認し、必要な啓発を行っている。	A	ゲームやネットとの付き合い方に関する学習の機会を用意する。
生徒支援	現在の登録生徒は非常に適応的であるが、今後の進路に向けて、様々な側面から社会的スキルの獲得を支援している。	A	本人および保護者と目標を共有し、役立つプログラムを用意していく。
親孝行の奨励	家族関係のあり様に合わせて、家庭での過ごし方について話題にし、孝行にあたる活動が見られた際にはその行動を強化するよう関わった。	A	家族関係に合わせた支援を継続する。
安全管理	安全のための意識向上に向けて、啓発するポスターの作成やアナウンスを行っている。また精神的不調を予防する関わりも重視した。	A	生徒の安全を第一に、平常時よりリスク管理を徹底する。
情報提供	各種文化活動をブログで紹介し、必要な情報を発信した。	A	生徒・保護者のニーズに合わせた情報提供を行う。
独自の行事	小中学生とともに活動する機会をもうけ、世代間交流の中、年上としての関わりや責任感を刺激することができた。	A	今後も世代を超えた交流を楽しめる行事を企画していく。